

## 5 不登校や小1プロブレム・中1ギャップ・高1クライシスへの対応

### (1) プログラム開発の背景

不登校は、早期からの支援が重要であるという認識に立ち、要因を的確に把握し、学校関係者や家庭、関係機関が情報共有し、組織的・計画的に取り組むことが求められています。本道の小中高等学校における不登校の児童生徒数は、7年連続で増加傾向、長期化傾向にあり（令和元年度調査結果）、児童生徒の教育機会を確保し、学習意欲の維持・向上等に向け、実態をきめ細かに把握するとともに、児童生徒の自己肯定感を高めるための取組を支援していく必要がある。

また、小1プロブレム・中1ギャップ・高1クライシスの未然防止の取組を進めるため、教職員の生徒指導・教育相談に係る資質・能力の向上と教師と児童生徒の好ましい人間関係を基盤とした学校体制の充実を図るとともに、幼小連携、小中一貫などの校種をまたいだ取組も進められている。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、不登校などの困難を抱える児童生徒が、体験活動を通して自身と向き合うことができたり、進学などで環境が変化しても安心して学校生活を送れたりできるようなプログラムを開発するものである。

### (2) 道及び道教委の主な関連施策

#### ・ 北海道総合教育大綱 基本方針Ⅱ 子どもの学びと成長の環境を整える「いじめの防止や不登校児童生徒への支援の充実」

児童生徒が安心して学習やその他活動に取り組むことができるよう、学校、家庭、地域住民、行政その他関係機関が相互に連携協力して、いじめの未然防止と早期発見・早期対応や不登校児童生徒への支援に取り組みます。

#### ・ 北海道教育推進計画 施策項目 13 いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実

不登校児童生徒へのきめ細かな支援を行うため、「児童生徒理解・教育支援シート」の活用や、学校内外での専門的な相談が受けられる窓口の周知徹底等により、教育支援センター、学校、家庭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童相談所、福祉関係機関、多様な教育機会を提供している民間の団体等が連携した地域ぐるみの支援体制の整備・充実を図ります。

#### ・ 第3次北海道生涯学習基本構想 視点2 1-(3)「子どもたちの居場所づくりの推進」

子どもたちの中には、家庭や学校の中で孤独感を抱えたり、情報端末を媒介とした友人との薄いつながりしかつけれないなど、人間関係の形成に課題も見られることから、行政・学校と地域・NPO等が連携し、異年齢・異世代とつながる場や心を落ち着けられる居場所づくりに取り組むことが必要です。

### (3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

砂川	<b>チャレンジキャンプ</b>	
令和2年10月1日（木） （日帰り）		魚釣り体験、まき割り＆火おこしチャレンジなど
足寄	<b>ネイパル春くらぶ</b>	
令和3年3月27日（土）～29日（月） （2泊3日）		課題解決ゲーム、学習タイム、まちなかフォトラリー、スポーツ交流、創作活動など
厚岸	<b>道東チャレンジキャンプ</b>	
令和3年2月8日（月）～2月10日（水） （2泊3日）		スノーシュー体験、雪中キャンプ体験、美幌博物館見学、バードコールづくりなど

# チャレンジキャンプ

## 1 事業のねらい

自然体験活動をとおして自分に引き合い、達成感を味わうことで、意欲と自信を高め、自分の可能性を自覚することを目指す。

## 2 事業の概要

- 期日 R2.10.1(木) 日帰り
- 対象 心に悩みを持つ小学校4年生～中学生
- 人数 1名
- 場所 ネイパル砂川・砂川遊水地
- 協力 石狩川振興財団

## 3 プログラム

10:00		10:30		12:00		13:00		14:30		15:00	
受付	出合いの集い	魚釣り体験 ～エサ取りが上手な魚との知恵比べ。何匹釣れるか挑戦だ～ ※雨天：レジンクラフト		移動 昼食		まき割り&火おこしチャレンジ ～火をおこして、サツマイモを焼こう。焼き栗も絶品だよ～		ふりかえり		解散	

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■個に即した体験活動

- ・保護者や担任からの聞き取りにより、参加者の実態を事前に把握し、屋外での活動を多く取り入れることで興味・関心を高め、日常ではできない体験を通して、自ら考え判断できるようにした。

### ■課題の難易度調整とサポート体制の共通理解

- ・あきらめないで取り組むことで得られる喜びを体感できるように、簡単ではないが努力すれば解決可能な課題を提示し、できるまで続けることで達成感を味わえるようにした。また、スタッフのサポート体制を事前に確認し、参加者の試行錯誤をささげらないように配慮した。

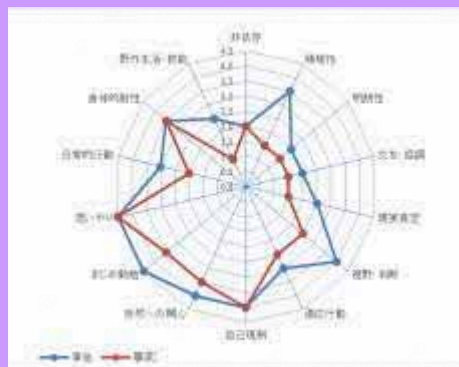


ハードルの高い活動で負荷



個に即した体験活動

## 5 事業の評価



### ■IKR 調査による変化

- ・「積極性」「視野・判断」「野外生活・技能」が1.5P向上。
- ・「自己規制」「思いやり」「身体的体制」は変化なし。

### ■参加者の声

- ・初めて体験することが多く、できるか不安だった。途中あきらめかけたこともあったけど、最後までできて良かった。とても楽しくできた。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 自分の力で行わなくてはならない環境が、意欲の向上につながり「積極性」が大幅に向上した。また、考えながらより良い方法を探求し続けたことで「視野・判断」が大きく向上したと考える。
- 1名の参加となったため、交流や切磋琢磨することを通して意欲や自信を高める場面設定ができなかった。参加対象に届く広報になるよう、工夫が必要である。



## 企画のポイント

参加者の実態を踏まえ、負荷と楽しさのバランスを考慮したプログラムの立案